

## 第27回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 議事録

日時:令和3年8月20日(金) 10:30~12:10

場所:第1会議室

(本部長:荒井知事)

\*配付資料「コロナ感染者の急増に負けない対処 ~奈良県緊急対処措置の期間延長と内容強化~」に基づき説明

### 1. 感染拡大の徹底阻止

- (1) 感染者の急増への対応
- (2) クラスターへの対応
- (3) デルタ株への対応
- (4) 県内地域別動向に即した対応

### 2. ワクチン接種を積極的に進め感染者の発生を抑制する

### 3. 医療提供体制を堅持して重症者を出さない

- (1) 医療提供体制の堅持
- (2) 自宅療養ゼロを守る
- (3) 自宅待機者、療養者の健康管理に万全を期す

### 4. 奈良県緊急対処措置の期間延長と内容強化

- (1) 奈良県緊急対処措置の期間延長
- (2) 奈良県緊急対処措置の内容強化

・対処措置に含めたく、奈良県立医科大学附属病院 感染症センター 笠原センター長にお言葉をお願いしたい。

(笠原センター長)

\*感染対策について

・現状、大都市では人流が減っているとはいえ、基本的な感染対策の徹底についてさらに強化が必要だと感じている。それは今回のテーマとなっている人間の生活に不必要な打撃を与えない持続性のある対処という観点からも重要。

・「普段同居しない人とのマスクを外した状態での対面」があちこちで実際には起きていると感じる。県での色々な取り組みについて、「確認」「点検」「フォローアップ」が必要。継続的・持続的な確認作業をお願いしたい。

・感染性が高いデルタ株であっても、今までより少ない量でのウイルスでも感染するという意味であって、今まで徹底していただいているマイクロ飛沫感染・飛沫感染・接触感染の3つの感染経路の遮断が大事。

\*医療と保健所機能について

・50歳代までの感染者が多く、その中で酸素吸入が必要な患者の数は増加。一方、そういった方々は人工呼吸器管理までいかずに回復されている方が多い。

・デルタ株の毒性は高まっているように思うが、感染者の年齢が低下していることで、その毒性が重症者や死亡者の増加といった形で目に見えるようにはなっていないように思う。特に死亡者は、現時点では第5波で感染者2,426人のうち1人。

・若い方は回復が早く、全体的な入院期間が短いことも、医療機関が何とか病床を確保できている理由の一つ。

・治療においてはステロイドやレムデシビル、そして酸素吸入を適切なタイミングで開始することが重要。これらの投与が遅れると不必要な重症化を招くことになる。まずは医学的に入院治療が必要な方を早期に入院治療につなぐ。隔離という観点からは、早期に宿泊療養施設管理につなぐことが重要。

・重症化予防に効果があるとされる抗体カクテル療法であるロナプリーブも投与が適切と考えられる患者に適切なタイミングで投与できる体制を維持することが重要。

・患者予後の改善およびクラスター防止の両方の観点から、保健所機能をしっかりと維持できるよう支援していくことが重要。

\*ワクチンについて

・現状、高齢の感染者や重症者が増加傾向にないことをみると、現在のワクチンはデルタ株に対して感染および重症化の予防という観点から一定の効果があると考えられる。

・ワクチン接種推進戦略については、より多くの人に早く行き渡らせることは重要であるが、本日の会議でも問題になった、①大阪との行き来がある方、②中等症になりやすい40歳代以上の方、そしてこれから学校が再開することを考えると、③学校などに通う子どもと同居される大人の方に、特に優先的に投与できればよいのではないかと思う。

・感染対策には「ベストプラクティス」という概念がある。色々な意見を現場で出し合い、良い事例を共有していく仕組みができるとよい。

(本部長:荒井知事)

・本日の会議資料にはないが、ひとつのアイデアとして、駅での検温、ラッチの内には置いてもらえないので、外での実施を検討しているところ。

- ・デルタ株にもワクチンは効きそうとのことなので、ワクチン接種を推進していく。
- ・クラスター発生後の事後対策であっても、成功例を共有できないか検討したい。
- ・新型コロナへの攻撃方法について世界的にアイデアが出ないなか、一時的な激論ではなく、前向きで持続的な気持ちの持ち方が必要と考えている。

(笠原センター長)

- ・感染対策はシートベルトに似ている。今までやっていなかった人にやるように行動変容を起こさせるのはとても難しい。最初はペナルティが必要かもしれないが、いずれそれが自分たちの利益につながっていることに気づき、そして最後には無意識にできるようになるのが理想的である。
- ・例えば駅の出口で検温するのもひとつの方法だと思う。
- ・奈良医大では、その場その場で行われる行為に対し、それのみのポスターを大きく掲示することを検討している。例えば、喫煙所には対面で喫煙しているようなポスターを掲示するなど。ある程度抑止力は働くと思う。

(本部長：荒井知事)

- ・行動変容をお願いするときの意識変容をどのようにするかが課題。
- ・速効的に効くかは分からないが、施設を出るときに検温を実施し、「無事に帰ってください」という社会的な意識変容を促す装置などもあるかと思う。
- ・持続的に自発的に、行動対応してもらえるように。

(笠原センター長)

- ・そうすることが自分にメリットがあるのだというところまでいけばよいと思う。

(本部長：荒井知事)

- ・県として継続して工夫していきたい。
- ・本日いただいたご指導は、対処措置に追加で記載したい。

\*「新型コロナウイルス感染症対策 コロナ感染者の急増に負けない対処 ～奈良県緊急対処措置の期間延長と内容強化～」について、笠原センター長の助言を追加した内容で、全会一致で承認された。